

【タイトル】 [バレンタイン特集] 大人気 Vtuber 彼氏「配信が終わるの、ずっと待っててくれたんだね、いい子だね」

【設定】 あなたの彼氏は大人気 Vtuber。健気に彼のバレンタイン特別配信が終わるのを待っていた「あなた」は、彼が長い間リスナーにかまけてあなたをほったらかしにしていたのに、たまらず焼きもちを妬いてしまう。Vtuber の彼は、どんな風に「あなた」を慰めてくれるのでしょうか？

長さ 9 分 53 秒。

【台詞】

「わぁ～、みんな、ありがとう！バレンタインという大事な日に、僕と一緒に過ごすことを選んでくれたレディーたち！」

「ふふ、刺草ネトルのことを愛してくれてありがとう！ぼくもみんなのこと、大好きだよ」

「スパチャもこんなに、すっごく嬉しい、みんなバレンタイン企画喜んでくれたんだね、はは」

「投げキッスしてあげる、ほらこっちも、あっちにも、ん～ま、ん～ま」

「それじゃあそろそろ配信を終わろうかな、レディーたちも早く休んでね」

「最後にもう一回、ハッピーバレンタイン！愛してるよ、じゃあね～」

【SE：配信が終わるエフェクト】

「ふう、終わった、今日の配信も大成功だったな」

「初見の方も結構来てくれたし、メンバーもだいぶ増えた」

「あ、ずっと隣で待っててくれたんだね、本当にごめん」

「ん？つまらなかった？」

「ごめんね、ついつい配信が長引いちゃって、バレンタインの特別企画だから、みんないつもより盛り上がっちゃって」

「君と過ごす時間が減っちゃって、本当にごめんね」

「え、どうしたの？そっぽ向いて……」

「どうしてこっちを見てくれないの」

「ん？んん？こっちを向いてよ」

「お話ししようよ」

「話してくれないと、何があったかわからないじゃない」

「…『大丈夫』……？」

「それでも君のことはわかっているつもりだよ、大丈夫なんて顔じゃないでしょ」

「だから、ちゃんと教えて、ほら、教～え～て～!!」

「…『そんなにリスナーのことが大事なら、ずっと配信をしていればいい』…？」

「うーん、リスナーのことは確かに大事だけど」

「でも、僕が一人だけ、本当に大事にしたいのは、君だけだよ」

「だから焼きもちやかないで、ね？」

「僕が一番好きなのは、君だから」

「ね？だから機嫌直して？ね？」

「口だけじゃなくて、行動で証明してって？」

「もちろんだよ、僕は約束は守る男だからね、行動に移すのは一番得意なことだよ」

「今からいろんな『行動』で、君に証明してみせるよ」

「君の彼氏が一番大事にしてるのは、君だって！」

「こっちに来て」

【SE：衣擦れの音】

「ほら、ぎゅうう～ってさせて、んん……」

「赤くなってる？」

「もしかして、さっき『君の彼氏』だって言ったの、ちょっとときどきした？」

「配信をしてる時はみんなの彼氏だけど、配信が終わった後は、君だけの恋人だよ」

「そして、『君』の恋人として、今からこの素直じゃない唇にちゅーするから」

「ん……ふ、んん……（キス音声）」

「知ってた？僕がいつも配信で囁いてる甘い言葉、全部君のことを考えて言ってるんだよ」

「あはは、顔をそむけないでよ、照れてる顔も僕に見せて」

「だからこっちを向いて、ね？ほら……」

【SE：肌が擦れる音】

「やっと顔を見せてくれたね、僕のかわいい恋人」

「照れてる恥ずかしそうな顔も、大好きだよ」

「配信が終わるの、ずっと待っててくれてありがとう、いい子いい子」

「ん？リスナーに焼きもちだなんて嫉妬深いと思われちゃう？」

「ふふ、そんなことないよ、焼きもちをやいてくれるのは、かわいいし、気持ちをちゃんと伝えてくれてうれしいって思ってるよ」

「気にしてないふりをして、本当はすごく気にしてたら、とても困ると思う」

「だって、それじゃあ君をすぐに慰めてあげられないからね！」

「そう思わない？だから、思ったことも、抱えてる気持ちも、僕にちゃんと見せて？」

「恋人同士なんだから、お互いに気持ちを伝え合わない」と

「それに……もし君が全然気にしてないんだったら、僕の方が不安になっちゃうよ」

「だって、それって、君は僕をほかの人に取りられてもかまわないってことになっちゃうでしょ？」

「僕は配信者だから、どうしたってみんなのものになるのは避けられない」

「でも、君に独り占めしてもらいたい僕もいるんだ」

「君だけに独り占めしてもらいたいんだ」

「ん？もう怒ってない、じゃあもう一回ちゅーしてもいい？」

「ん…んん……（キス音声）」

「大好き、大好きだよ」

「ハッピーバレンタイン」

END.